

発行元
東京新聞
南千住東口専売所
TEL5850-3699
発行責任者
鬼塚 佳代子
TEL090-2657-0300

すまいるたん



第114号

8月4日

三ノ輪の語り部 (1911年生まれ) 小林マツさんの記憶II

「現在地の瑞光尋常高等小学校の最初の卒業生です」

大正13年の瑞光尋常小学校の卒業式の写真に小林さんは写っています。

瑞光尋常小学校は明治20年豊島郡千住南組小字大門（現在荒川区立南千住図書館）に開校し、瑞光尋常高等小学校数えて8歳（満6歳）で大正10年に現在地に校舎を設立しました。移転前の場所が家から近い人はそのまま残り、小林さんは、設立された現在地に通学しました。昼休みは1時間あり、昼食を食べに家に帰り、遠方の人達はお弁当を持って来てました。4年生くらいからはじめに半紙に書かれた**教育勅語**（明治23年明治天皇が發布し、文部省が全国の学校に配布、学校儀式での奉読などを指示した）を皆で読み上げていました。**四大節**（元旦・紀元節（2月11日）・天長節（昭和天皇誕生日4月29日）・明治天皇誕生日（11月3日））には体育館に児童はよそ行きの身なりで集まり、君が代斉唱しその時々のお祝いの歌を歌い、教育勅語を奉読してお祝いで、**落雁**の紅白のお菓子をもらうのが楽しみでした。尋常小3年か、4年位までは、昼で授業が終わったと思います。授業は

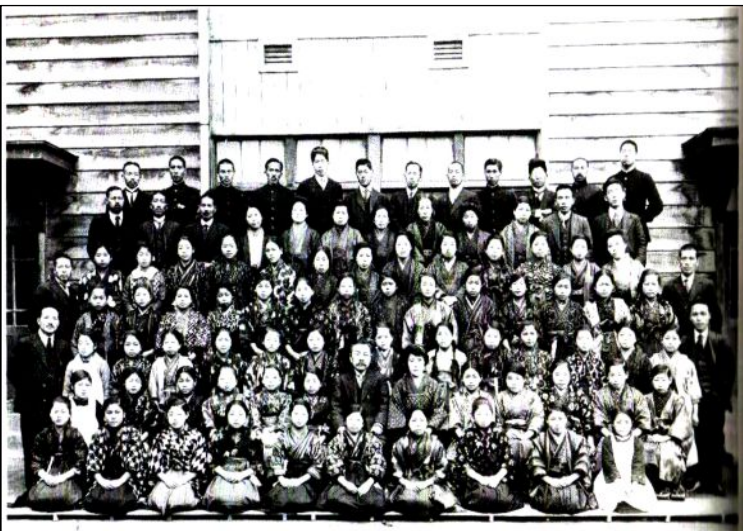
修身・算術・書き方（習字）・綴り方（作文）・唱歌・図画（クレヨン）があり、5年から国史（日本史）・地理・理科がありました。修身の教科書はカタカナで書かれていました。ひらがなは、女性が使う非公式のものとして漢文訓読の送り仮名、添仮名は江戸時代以来のカタカナにとされていたからです。ひらがなは2年から習った気がします。通知表は甲乙丙で付けられてました。



男の先生は背広姿で女の先生は袴をはいていました。先生は、とても恐い存在で男の子の遊びのメンコをしていたのを、友達に先生に言いつけると言われてビクビクして学校に行つた覚えがあります。男組と女組に分かれてましたが、入学当初からだったかは定かではありません。男の子は野球や**助木**で遊び、小林さんは、ドッジボールで遊んだ記憶があります。生徒はほとんどが木綿の着物に下駄履きで4つ折した日本手拭いを下げ、白布の肩掛けかばんだったと思います。男子生徒は学帽をかぶり、女子生徒は髪を伸ばしてました。5年生の時に転校生の女子が洋服で来た時にはびっくりしましたね。下駄箱で、草履や運動靴に履き替えたと思います。雨の日は高下駄を履き爪掛をつけました。遠足もあり、上野動物園、川越の芋堀、江ノ島にいきました。修学旅行は1泊2日で日光に行き、枕投げをして怒られてから寝ましたね。冬になると、一段高い教壇のすぐ前に2

尺×2尺の木製の火鉢がありました。灰の中に炭が入っており、火鉢の下には引き出しが付いており、早い者勝ちでお弁当を入れて暖めておりました。尋常小学校を卒業して別棟の高等科で2年勉強して、お作法と裁縫を習いました。高等科は、袴をはいていきました。ひだがあるのがお洒落で寝押しした記憶があります。小林さんとお話をしていると、知らないことばかりで♪水師營の会見の歌を聞かせていただき、乃木將軍の歌と初めて知りました。

「文化は一度に來ない。徐々に來る」と小林さんは仰いました。徐々に消えて無くなる気がします。すぐにご返却致しますので古い写真、お持ちの方ご連絡下さい。記憶を記録させていただけますか。



大正13年（1924年）瑞光尋常高等小学校 尋常科卒業生
小林マツさん、前列左から4番目